



## 令和元年度 病院事業会計決算（見込）の概況



### ○ 決算見込みのポイント

◎病院事業全体（市立3病院計）の経常損益は、外来収益の増加などによる収益増はあったものの給与費、材料費の増加などにより利益は縮小し、**3,717万円の経常利益**となりました。また、病院事業全体の純損益は、**4億4,473万円の純利益**となりました。

市立3病院の経営成績（税抜き）

（単位：円）

科目	川崎病院	井田病院	多摩病院	病院事業合計
総収益	21,160,084,225	10,604,812,001	1,940,034,200	33,704,930,426
医業収益	17,613,567,517	8,593,923,041	968,382,183	27,175,872,741
医業外収益	2,807,461,031	1,973,802,056	948,711,752	5,729,974,839
特別利益	739,055,677	37,086,904	22,940,265	799,082,846
総費用	20,452,366,603	11,029,911,845	1,777,924,768	33,260,203,216
医業費用	19,198,140,565	10,360,318,023	1,461,017,743	31,019,476,331
医業外費用	959,253,824	573,205,935	316,746,267	1,849,206,026
特別損失	294,972,214	96,387,887	160,758	391,520,859
経常損益	263,634,159	△ 365,798,861	139,329,925	37,165,223
純損益	707,717,622	△ 425,099,844	162,109,432	444,727,210

### ○ 患者状況・診療収益状況

◎川崎病院では、入院・外来ともに内科の患者減などにより患者延人数が減少しました。

◎井田病院では、入院・外来ともに地域医療連携の取組の推進などにより患者延人数が増加しました。

◎市立3病院では、2月以降、新型コロナウイルス感染症の拡大が影響し、入院及び外来患者延数が減少したものと考えられます。

	入院患者延人数	外来患者延人数
川崎病院	175,894人（9,751人減）	312,697人（14,811人減）
井田病院	112,480人（2,298人増）	161,024人（1,407人増）
多摩病院	114,205人（1,850人増）	215,483人（1,850人減）

	入院患者実人数	1人平均入院日数
川崎病院	14,042人（582人減）	12.5日（0.2日減）
井田病院	6,343人（106人増）	17.7日（増減なし）
多摩病院	9,869人（263人減）	11.6日（0.5日増）

	入院収益（税抜き）	外来収益（税抜き）
川崎病院	114億1,505万円（2億7,661万円減）	47億8,251万円（1億6,966万円増）
井田病院	52億1,756万円（2億6,955万円増）	28億3,825万円（2億5,722万円増）
多摩病院※	63億9,046万円（6,583万円減）	29億3,280万円（1,196万円減）

※多摩病院は利用料金制を適用しているため、入院・外来収益は「決算見込みのポイント」の経営成績の表には含まれておりません。

## ○ 業務状況

病院事業においては、従来にも増して医療の質の向上と経営基盤の強化を図るとともに、平成28年3月に策定した「川崎市立病院中期経営計画2016-2020」に基づき、更なる経営改革に取り組んでいるところです。

また、新型コロナウイルス感染症への対応については、市立3病院において、令和2年2月以降、横浜港に到着したクルーズ船の船内で確認された感染患者、市中感染等による感染患者の受入れを順次行うとともに、感染拡大を見据えた感染患者受入病床の拡充・整備を行うなど、公立病院としての使命を適切に果たせるよう取り組んでいます。

◎川崎病院では、高度・特殊・急性期医療、救急医療を中心に、小児から成人・高齢者・妊産婦等の医療を提供するとともに、精神科救急医療の基幹病院としての機能も担っています。また、市内唯一の感染症病床における二類感染症患者の受入や、災害拠点病院、地域医療支援病院、神奈川県がん診療連携指定病院としての役割を担うほか、臨床研修指定病院として医師の育成を行うなど、地域医療水準の向上に寄与しています。

◎井田病院では、南部地域の中核病院・国指定の地域がん診療連携拠点病院として、増大するがん等の成人疾患医療、救急医療、緩和ケア医療を担うほか、市内唯一の結核病床を有する病院として、結核患者への透析の対応も行うなど、地域医療の水準向上に寄与しています。令和元年7月には、地域の在宅療養患者の緊急時の受入れを行う「在宅療養後方支援病院」の届出を行いました。また、令和元年東日本台風の際には、他病院から患者を受け入れるなど、高台に立地する水害に強い地の利を生かした災害医療機能を発揮しました。厚生労働省による、公立・公的医療機関等の2025年に向けた具体的対応方針の再検証要請の対象となりましたが、井田病院が行った現状の機能を維持するという再検証結果について、地域医療構想調整会議において合意を得ました。

◎多摩病院では、小児救急を含めた救急医療を中心に、高度・特殊・急性期医療、アレルギー医療などを提供するとともに、地域医療支援病院として引き続き地域の医療機関との連携に努めるなど、北部地域の中核病院としての役割を果たしました。

## ○ 主な建設改良

◎川崎病院では医療機能再編整備に向けた土壌汚染調査等を実施するとともに、地下にあるエネルギー設備更新のため、事業者を決定しエネルギーサービスの導入に着手しました。井田病院では、病院敷地内の広場整備などを除き斜面防護等整備工事が完了し、中原区市民健康の森に通じる歩行者専用道が開通しました。

◎医療器械については、川崎病院では超電導磁気共鳴診断装置（MR装置）の更新等を行いました。井田病院では内視鏡ファイリングシステムの更新等を行いました。

【問合せ先】 川崎市 病院局 経営企画室 経理担当 市川  
電話 044-200-3855

令和元年度 病院事業会計決算（見込）のポイント（税抜き）

<病院事業全体>

			令和元年度決算 (見込)	平成30年度決算	増 △減額	増 △減率	備 考
1 収益的収入			337億 500万円	331億5,500万円	5億5,000万円	1.7%	
主な 収入	入院収益	166億3,300万円	166億4,000万円	△700万円	△0.0%	患者延数の減少による川崎病院の減	
	外来収益	76億2,100万円	71億9,400万円	4億2,700万円	5.9%	診療単価の増加による川崎病院、井田病院の増	
	他会計繰入金	60億5,300万円	60億 500万円	4,800万円	0.8%		
2 収益的支出			332億6,000万円	322億8,500万円	9億7,500万円	3.0%	
主な 支出	給与費	149億 700万円	145億 円	4億 700万円	2.8%		
3 経常損益			3,700万円	3億2,700万円	△2億9,000万円	△88.7%	
内訳	川崎病院	2億6,400万円	6億5,900万円	△3億9,500万円	△59.9%		
	井田病院	△3億6,600万円	△4億7,000万円	1億 400万円	22.1%		
	多摩病院	1億3,900万円	1億3,800万円	100万円	0.7%		
4 純損益			4億4,500万円	8億7,000万円	△4億2,500万円	△48.9%	
内訳	川崎病院	7億 800万円	11億9,000万円	△4億8,200万円	△40.5%		
	井田病院	△4億2,500万円	△4億7,300万円	4,800万円	10.1%		
	多摩病院	1億6,200万円	1億5,300万円	900万円	5.9%		

(注) 増△減率が正の場合、収支は改善している。負の場合、収支は悪化している。

5 資金不足比率	— (資金不足となっていない)	— (資金不足となっていない)			参考：財政健全化法における経営健全化基準 20%
----------	--------------------	--------------------	--	--	--------------------------

※ 金額については百万円未満を四捨五入（一部、端数調整有り）

※ 増減率については小数点第2位を四捨五入

